

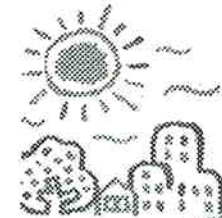
# 市政研究所だより NO.8

豊中市政研究所 TIMR (The Toyonaka Institute for Municipal Research)

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-1

TEL:06(6862)2290 FAX:06(6862)2292

ホームページ: <http://village.infoweb.ne.jp/~timr> E-mail: [fvbk5863@mb.infoweb.ne.jp](mailto:fvbk5863@mb.infoweb.ne.jp)



MENU

■講演会開催の報告	1
■研究員レポート	2
■機関誌「ビジョン22」	3
■データバンク	3
■事務局から	4

## 講演会『どうなる21世紀家族の姿』を開催

市政研究所では9月29日千里中央の千里ライフサイエンスセンターで「どうなる21世紀家族の姿」—家族福祉の実現と「公・共・私」の協働—をテーマに、井上眞理子氏(大阪女子大教授)を招いて(財)大阪府市町村振興協会と共催で講演会を開催、100人が出席されました。

### 講演会の概要

#### 1. 家族の「揺らぎ」—日本と欧米

(1) 揺らぎの指標として、次の3点があげられる。第1に世帯規模の縮小と世帯数の増加がある。一世帯の人数も90年には3人以下になり減少の一途をたどっている。高齢化も進み2010年には高齢者単身世帯は31%になってくる。第2に離婚率の上昇、第3に未婚率の上昇がある。女性の未婚率の上昇(女性のキャリアの進展)に加え、結婚年齢も高くなっている。95年には35~39歳の未婚率が9.7%になっているが、男性の同年代の未婚率は22.6%にのぼっている。

(2) 欧米では「脱制度化」が進み、結婚して家族を作るという動機そのものが低下してきている。その第1として嫡子行動の減少、第2に非嫡出子の増大と家族の「契約化」が共通の現象として現れている。ちなみに婚姻外出生では、スウェーデン50%、デンマーク・ノルウェー40%台、イギリス・フランス30%台で、脱制度化が進み、家族の契約化という形になっている。

#### 2. 家族の機能

このように家族が揺らいでおり、家族の機能が喪失していることから家族解体論・不要論が出てくる。一方、子どもの社会化等非常に小さな集団で、親密な人間環境が展開している家族の必要性。また、大人にとっても、パーソナリティの安定化のために、家族における親密な人間関係が必要だという擁護論もある。

#### 3. 戦後日本における家族と社会福祉

まず1950年代から親族扶養優先の原則つまり、家族の自助努力をし、それが駄目なら公的福祉でというコスト抑制の手段としての家族と位置づけた。1970年代は高度経済成長により福祉国家体制整備を目指し、福祉元年と言われたが、73年の石油ショックにより日本型福祉構想に転換した。これは地域と家庭を基礎に福祉水準を向上させることで、公的福祉の負担を軽減させる方向に変わる。1980年には福祉の供給主体は民活というかたちで民間を積極的に活用していくという論がだされる。その後1990年代に入り、福祉改革の中で今後は地域福祉という概念が出てくる。福祉サービスは自治体固有の事務にする方向が打ち出され、地方分権化とともに福祉の地域化となっていく。つまり、地域福祉が分権化、脱施設化、在宅化、ノーマライゼーションというかたちにならっていく。

#### 4. 地域福祉の展望

縮小化し機能を消失していく中で、家族を取り巻く福祉は公的福祉(公)と民間サービス(私)、その真ん中に「共」という領域を考えていく必要がある。そこで、公私の領域とともに、福祉ボランティア、NPOの結節点となる社会福祉協議会等によって形成される「共」の領域で、家族がサポートされていく必要がある。そうでなければ21世紀家族は維持できないだろう。また、自治体においては家族福祉の総合的・複合的なセクションを設置すべきであると思われる。 \*4ページに当日のアンケートを掲載しています。



## 分権とその担い手 —あるインタビューから—

- 分権一括法が来春4月から施行され、自治体では条例案の整備が急ピッチで進められている。時期を同じくして、基礎自治体が保険者となる介護保険制度がスタートする。一連の福祉改革をめぐって「統制された分権」や「上からの分権」と言われつつも、各論では一足先に全国一斉に自治力が試されることになる。
- 福祉サービスは、行政処分による「措置」から民間事業者やNPOにも開放された「契約」のもとで供給されていく方向に向かっている。研究会では現在、コミュニティケアをめぐって登場する様々なプレイヤーにインタビューを続けながら、地域社会でのそれぞれの役割や分担事例を探っている。
- 先日、千里ニュータウンで集合住宅の一室(3DK)を賃借、拠点にしている高齢者デイサービスの会にお伺いした。ここには、主に痴呆症を持った高齢者が通所している。豊中市では千里地区に限らず、単身・夫婦のみの高齢世帯が急増している。しかし、「家族に同居者がいても、実質的には昼間は独居状態の人が多い。在宅が

できる、在宅が楽になってこそ本人のためにもなるし、一緒に暮らしている家族へのサポートに繋がる」と。

- また、介護が新たなビジネスチャンスを生むと期待される中で、「保険制度を活用するため特定非営利法人を取得。現行制度では、私達の目指すケアと認定基準の間に乖離がある。介護はビジネスに馴染まないと思う」。
- 福祉に限らず、行政と民間の折り合いのつけにくい部分で市民事業が生まれている。そこに住む生活者が地域の問題を敏感に感じ取り、その問題をときほぐすために活動が起こされる。このような組織は、公-私のグレーゾーンで調整者としての役割を担い、ローカルオプティマムの一翼を担っているといえよう。地域には、当事者や家族の生活を裏で支える市民の存在があることを改めて思い知る。(本荘)



## 都市計画・住宅分野の今年のキーワード

先月、都市計画学会と都市住宅学会の発表会に参加してきましたので、簡単ですがその報告をします。

今年の両学会で目立ったものをキーワードごとに整理しますと…

- ① 家族の変化と居住ニーズ (共働き世帯の居住地選択行動、駅前中心市街地から郊外へ移転する世帯の居住ニーズや単身・夫婦のみ・子育て世帯の居住ニーズと住宅ストックのギャップなど)
- ② 住宅に関する情報提供と性能表示 (中古住宅の状態や新築の性能表示、品質表示の統一規格化)
- ③ 区分所有マンションの建替え
- ④ 中心市街地の地域内交通のあり方 (コミュニティ・ゾーン計画の策定方法や交通実験、コミュニティ・バス、乗り継ぎ・交通機関選択、高齢者のアクティビティなど)
- ⑤ まちづくりの主体と合意形成 (住民参加のノウハウ・技術の共有、制度上の位置づけなど)
- ⑥ 新公団 (都市基盤整備公団) に求められる役割 (中心市街地の再整備、賃貸住宅ストックの活用など)
- ⑦ 都市マスタープラン策定過程での獲得 (地域住民が校区単位の地区別計画を策定する過程での行政の支援と、そこから提案された“住民版”地区別計画を全体の都市マスタープランに反映させる際の市民との協議。インターネットを活用した都市マスタープラン策定の成果など)
- ⑧ 既成市街地の再整備方策 (街並み誘導と市街地整備を併用した地区計画制度の応用、総合設計制度で生み出された公開空地の実態分析など)

豊中に関連したものとしては、豊中駅前を事例とした住民主体のまちづくりについて有志の一連の取り組みと千里ニュータウンのK-A団地の建替えについて、それぞれ研究者の方からその成果と意義が発表されました。

(藤家)

## 建物のリサイクル

建築物のライフサイクルコストの研究を進めるにあたって、関係する情報がないかと毎日、5大新聞に目を通していますが、10月23日付の毎日新聞のウイークエンドレポート欄に興味深い記事が載っていたので紹介します。

新築なら8億かかる庁舎を「リファイン建築」という手法で半分の4億円で建てたという記事です。

「リファイン建築」とは九州で活躍する建築家、青木茂さんの造語で、古くなって建築当初の用途に合わなくなった建物を全面改装し、内外観も用途も一新してしまう建築方法のことです。紹介されていたのは大分県宇目町(人口4000人)のケースで、1961年に建てられた庁舎が手狭になったので、近くにあってほとんど使われなくなっていたグリーンセンターを大改造して役場に転用することにしたもの。同センターは1975年の建設。

躯体(骨組み)部分だけを残して耐震補強を施した

のち、建物中央に円を描くようにせり出した鉄骨造りの大会議室をつくり、個性的な建物としています。

「建設費が約半分になるほか、建替えて生じる産業廃棄物と二酸化炭素の量も大幅削減できるという。建設費が軽減でき、環境に優しいのなら、財政難の自治体や企業、ひいては私たち市民にとっても朗報だ」、とあります。

豊中市においても近い将来、学校統廃合などにより生じる建物の再利用を考える際に、大いに参考になるのではないのでしょうか。環境行政を進める中、建物の長寿命化は時代の要請になってきています。詳しくは、学芸出版社から「建物のリサイクル」という本が出ています。研究所にもおいていますので、興味のある方はご連絡ください。(太原)



## 機関誌 「TOYONAKA ビジョン22」

機関誌「TOYONAKA ビジョン22」Vol. 3のお知らせ 平成12年(2000年)3月発行予定

—特集:『地域単位の政策—計画—まちづくり ~地域力再生の視点から~』—

	『タイトル』(仮題)	執筆者(敬称略)
特集論文	転換期の地域社会 一都市コミュニティの再定義に向けて— 地域の日常生活を支えるしくみ 地域福祉、生活支援 市民生活から見た地域の住まい・まちづくりの機能 住民主体のコミュニティ計画づくり 地域の教育機能について	奥田道大 牧里毎治 弘本由香里 久隆浩 池田寛
トピックス	ライフ・ストーリーに見る千里ニュータウン再生の課題 地域再生へ向けたコミュニティ・ビジネスの取り組み	伊東康子 細内信孝・木内政希
講演録	都市居住・コミュニティ・家族 どうなる21世紀家族の姿	大江守之 井上真理子

## データバンク

こんにちは、データバンクです。

さて、今年も残すところあとわずかとなりました。  
西暦2000年問題(Y2K問題)対策は万全ですか?

「一部のコンピュータシステムが日付を判断するのに、西暦の下2ケタだけを使用していることが原因で生じる」(\*1)問題の総称を「西暦2000年問題」と呼んでいます。

「コンピュータが発明された欧米では西暦年の表示は下2桁が慣例になっていることや、コンピュータの普及期(1960年代~70年代)はメモリや記憶装置が非常に高価で情報量を少なくしかつ処理速度の向上を図った」(\*2)ことが、今になって影響してきているのです。(次ページにつづく)

今や日本の社会はコンピュータに大きく依存しています。「西暦 2000 年問題」という問題がただの杞憂に終わるのか、それとも大問題に発展するのかは当日に分かりませんが、コンピュータとはいえ、ヒトが作り出した物に「絶対」はないという教訓をまたひとつ得たような気がします。(山下)

「西暦 2000 年問題」について詳しくは…

\*1) 時事通信社編著『時事ニュース 1999-2000』、時事通信社、1999 年 2 月

\*2) 「潮流：コンピュータ西暦 2000 年問題」『都市政策』第 96 号

(財)神戸都市問題研究所、1999 年 7 月



いずれも市政研究所の蔵書より。

## ＝ 講演会でのアンケートから

下記は 9 月 2 9 日の講演会を聞かれた方からのアンケート内容です。ご協力下さった皆様の貴重なご意見に感謝いたします。研究所ではこれを機会に今後も頑張ります。アンケートは 20 代から 70 代までの 41 名(女性 22 名、男性 19 名)から回答を得、年代別では 50 代 12 名、40 代 9 名、60 代 8 名の順でした。

### 【講演会の感想】

- ・提起の家族問題相談所(総合窓口)を本格的に開設すべきである。
- ・今や一家庭の中での問題ではなく、全国的・世界的な問題を小さなことからでも行政に反映されることを望みます。
- ・家族を総合的にサポートする役割を自治体、地域、NPO 等で支える話はよかった。
- ・21 世紀はシングルの時代—非常に興味深く拝聴した。私も長い時間かけて勉強したい。
- ・家族の果たす役割を改めて考えさせていただいた。欧米と日本の結婚に対する考え方のギャップを痛感した。
- ・実践者と研究者の共同作業を進めていくことが重要だとわかる。

### 【豊中市の課題と研究所に対する期待】

- ・高齢化に伴う道路の安全性の確保と自然と共存を考えた道路について根本的に考えるべきだ。
- ・21 世紀は市町村合併が課題であり、豊中市が北摂の中核としてリーダーシップをもって取り組むべきだ。
- ・少子化対策として、働く女性をサポートするため小学校に保育施設を併設、ボランティアを含めサポートシステムを検討できないか。
- ・高齢人口の増加の中で、生きがいのある街づくりと、健全財政とをいかにバランスさせていくか。
- ・完成して 30 年を経過するニュータウンをいかに再生して行くかの方策を早急に研究すべきでは。

## 事務局から

### メダカの学校は水槽の中！

◎最近、メダカを飼いはじめました。我が家に来てまだ 1 カ月あまり。小さな水槽の中を、スイスイと泳ぐ姿のかわいいこと。ヒーターまで取り付け、冬支度も万全。しかし、温度調節ができない為、水温計は常に 27 度をさしたまま。まるで、「常夏の島ハワイ」の状態です。「えーメダカにヒーター入れているの、過保護やねー」と、笑う母。そんな言葉にもめげず、「メダカちゃんおはよう！」と言いながら、毎日えさを与えています。

◎ある日、ついにメダカが卵を生んだのです。けれども、喜びもつかの間、家に帰るとその卵は、既にあとかたもなかったのです。しかし、数日後 2～3 ミリほどの小さな黒い点々が、なんとメダカの赤ちゃんがかえっているではありませんか。かわいいなあと見ていたその瞬間、他のメダカが大きな口をあげ近づき、赤ちゃんメダカをパクと食べてしまいました。「ああショック！」。大きな水槽を買う決意を、新たにしました。(水田)

### よいお年を！

◎いつまで続く平成不況。それでも時はたち、あちこちの樹樹に赤、青、黄の小さなイルミネーションが瞬くクリスマスがやってきた。懐の寒さが身にしみるのは、市民(民間)だけではない。

◎豊中市のフトコロは、市税の大幅な落ち込みで寂しいし、地方交付税交付団体になってしまった。

◎研究所でも諸経費の節減につとめ、一方では市民、職員、民間機関の協力を得て研究活動を続けている。12 月 24 日にも研究会を開くなど知恵を絞る。

◎第 3 の新千年紀—Millennium—まであとわずか。どうか皆様にとりましても、コンピューター 2000 年問題を乗り越え、よい年でありますようお願いいたします。(川手)

